

「グラムシ・ヘゲモニー論と現代政治思想」

この講座のテーマは、20世紀イタリアのマルクス主義思想家アントニオ・グラムシ（1891－1937）のヘゲモニー論の解説です。グラムシ・ヘゲモニー論の理解をすすめるためには、その前史としてヘーゲル、マルクス、レーニン、トロツキー、クローチェ、ソレル、ジェンティーレ等との継承関係にも目配りする必要がありますので、思想史的なアプローチになります。現代の政治現象・社会現象を考察・分析する上で、グラムシのヘゲモニー論を使ってどこまで行けるのか議論が出来ればと思います。現代の政治現象・社会現象として考えているのは、フォーティズムからポストフォーティズムへの移行、ファシズムとポピュリズムの共通点と相違点、機動戦から陣地戦への移行、メディアとしての政党論、サバルタン論などです。そのため、議論はグラムシ以降のマルクス主義理論の展開にも及びます。ルイ・アルチュセールの国家のイデオロギー装置論、マリオ・トロンティの社会的工場論、アントニオ・ネグリのマルチチュード論、ガヤトリ・スピヴァクのサバルタン論なども取り上げることになるでしょう。

<参考文献>

グラムシ『革命論集』上村忠男編訳、講談社学術文庫
グラムシ『新編・現代の君主』上村忠男編訳、ちくま学芸文庫

中村勝己「ヘゲモニーの系譜学——グラムシと現代政治思想」、杉田敦編『講座 政治哲学 第4巻 国家と社会』岩波書店所収
など

時間 18:30～20:00

※他の講座より開始時刻が早いので
ご注意ください

毎月（7月～11月）第2木曜日開催

第1回 7/11（木）

第2回 8/8（木）

第3回 9/12（木）

第4回 10/10（木）

第5回 11/14（木）

講師

中村勝己（なかむら・かつみ）

1963年生まれ。イタリア政治思想史研究。政治学博士。中央大学・群馬大学で非常勤講師。論文に「ヘゲモニーの系譜学——グラムシと現代政治思想」、杉田敦編『講座 政治哲学 第4巻 国家と社会』（岩波書店）所収、市田良彦・王寺賢太編『現代思想と政治——資本主義・精神分析・哲学』（平凡社）所収など。訳書にアントニオ・ネグリ『デカルト・ポリティコ』（共訳・青土社）、エリック・ホブズボーム『いかに世界を変革するか』（共訳・作品社）など。

